

テーマ:

凜々子で笑顔の花を咲かせよう ～保育園と家庭がつながる食育～

岐阜県
社会福祉法人
足近保育園
今西 沙代先生



この活動の特徴



「凜々子」活用のポイント①

園で育てた「凜々子」を
各家庭に配布し、調理をしてもらうことで
園と家庭とのつながりを深めた

「凜々子」活用のポイント②

「凜々子」の栽培活動を通じて
JA や福祉施設など
地域の人々と交流を深めた

活動のねらい



- 土に触れ、自然と仲良くなる
- トマトの栄養を学ぶ
- 食べ物に感謝の気持ちをもてるようになる
- トマトを通して保育園と家庭がつながる
- トマトを加工することの不思議を知る

活動の概要と流れ

対象学年 : 以上児3・4・5歳児 (95名)
実践期間 : 4～9月

時期	学習活動
5月	畑の準備をし、苗の植え付けをする 観察開始
6月	支柱立て、芽かきの様子を観察する 「凜々子」を初収穫。生の「凜々子」をみんなで味わう
7月	収穫した「凜々子」を各家庭に配布し、調理した料理の写真を募集する 「凜々子」トマトソース作りをする 給食室前に「凜々子」に関する展示スペースを設置する
8月	展示スペースに各家庭での「凜々子」料理写真を掲示する 「凜々子」ジャムを作る 近隣の就労支援施設のパン屋さんで「凜々子」マフィンを作ってもらおう
9月	お菓子研究家の方に「凜々子」ムースを作ってもらおう



ここがポイント！取組の工夫と実践の成果

年々と増加する「凜々子」の収穫数

2015年より「凜々子」の栽培に取り組んでいるが、年を重ねるごとに収穫数も右肩上がり増加している。2015年は1,072個、2016年は2,080個、そして今年は3,887個と大豊作だった。

これは地域のボランティアの方にご協力をいただいたり、前年の年の反省を活かし、栽培方法を見直したりした結果であると考えます。

年々と収穫量は増加しているが、園児が口にするものなので、無農薬で栽培しているため、虫がついたり、病気になったり、天候に左右されたりし、「凜々子」やその他の野菜も「生きている」ことを実感させられる。

今年は豊作だった反面、鈴なりに実る「凜々子」の重さに耐えられず、実が地面につき腐ってしまうことも多かったので、来年は対策していきたい。

園児、職員、ボランティアの方みんなが、農家の方のように1本の苗から100個近くの「凜々子」を収穫できる日を夢みている。



家庭からたくさん届いた「凜々子」料理写真

豊作だった「凜々子」は、園で給食やおやつとして調理して食べるだけでなく、各家庭にも持ち帰ってもらった。そしてその「凜々子」を使ったメニュー写真を募集したところ、たくさんの写真と感想が集まった。「オムレツ」「スープ」「ミートソース」や「夏野菜たっぷりの麻婆豆腐」など、どれも美味しそうな写真ばかりだった。給食室の前に展示スペースを設置し、その写真を掲示したところ、園児たちも興味津々で見入っていた。園のイベントで来園するたくさんの方に見ていただけるように、掲示期間も工夫をした。

収穫した「凜々子」を家庭へ配布したことで、園と家庭が一緒になり「食育」について取り組むことができ、保護者の方々ともコミュニケーションを図ることができた。

先生から一言！実践を通して

今年は収穫した「凜々子」を各家庭に配布したことで、栽培活動の幅が広がりました。いつもはトマトを食べられない子も、持ち帰った「凜々子」は食べたなど、うれしい報告もありました。

毎年「凜々子」の栽培活動の様子を、配布物や掲示物、ブログなどで発信しており、年々と保護者の方に浸透してきました。食育の質を高めるには、保護者の方の協力が不可欠です。しかし、毎日忙しく働く保護者の方をどこまで巻き込めるかが課題でした。「凜々子」の栽培活動を通して、園と家庭で一貫した食育を行うことができました。



受賞理由

先生方、地域の方、そして子どもたちのがんばりでたくさんの「凜々子」を収穫していただきました。保育園とご家庭とのつながりを大切にされており、配布物や掲示板、給食だよりやブログを通して、保護者の方への活動の周知に取り組み、ご家庭を巻き込んだ食育につながりました。